
うたかた その1

ほんま ぶんこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うたかた その1

【Zコード】

Z3288V

【作者名】

ほんま ぶんこ

【あらすじ】

僕は目の前にある飛び箱に向かいジャンの話をしているが、それが本来の目的ではないのだ。

僕は校舎裏で西里にジャンの話を無理矢理聞かせていた。

無論、体育座りだ。

大型犬のような顔の西里は自分の膝を小気味いいリズムで叩き、秋の七草の話をしていた。

僕はそんな西里を無視し1930年代から50年代に活躍した、ジャズギタリストで作曲家、ジャンの話を続け、いつも通り御決まりの台詞で締める。

生まれた時代が遅すぎた、と。

僕がいくらジャンを敬愛しても彼はもうこの世にいない。

天才が爪弾く生の演奏を、今、聞くことはできない。

恨むぜ中学生の僕よ、と。

感情の昂りにズリ下がったメタルフレームの眼鏡を押し上げ熱く語るが、西里は、「そーだねー」と生返事をし立ち上がり、不要靴箱をツタツタと正確に叩く。

楽器にはまるで関心がないのに。

つまり僕達は話が全く噛み合っていない。

噛み合わない会話を昼休み校舎裏の秋の日溜まりで延々しているそんなこの場所は人が来ないせいか、破れた運動マットや跳び箱や誰かが隠した青いラインの上履きなどが無造作に放置されている。もうすぐ文化祭が近いこともあり雑多なものが増えてゆく可能性を秘めたここで、僕は運動マットをずるずると引き寄せ、目の前にある跳び箱に向かいジャンの話をしているが、それが本来の目的ではないのだ。

「ああ、秋風が気持ちいい」と

母さんの口真似をして植え込みの向こう側の遠い校庭から響く、誰かの声を耳にしつつ、

「始めるぞ」と僕は西里に声をかけた。古い靴箱を叩くツタツタというリズムがピタッと止まり、細い田をカツと見開いた西里が無言で僕の隣に座った。

無論、体育座りで。

青いジャージの男子2人が校舎裏でイチャイチャじやれ合つている危ない構図だ。だが構わず話し合う。小声で、とある計画を話し込んでいくと、田の前に放置された跳び箱の上部が、パカツと開いた。

「すべて聞かせてもらつたぞ。上野、西里」

「おまえは……谷川」

つづく（多分、来週ぐら）アップ）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3288v/>

うたかた その1

2011年10月9日02時09分発行